

音の輪・音の和



2025年3月発行 No.15

P.2

兵庫県音楽療法士ってどこにいるの？

- ▶ 兵庫県音楽療法士会の会員分布図
- ▶ 兵庫県音楽療法士が活動している施設等

P.3

あなたの町のセラピスト

- 太田 雅己 会員（神崎郡神河町）
- ◆ 高谷 寛 会員（加古川市）



P.4

山口陽雄記念賞授賞式

- ▶ 鞘本 尚子 会員にインタビューしました

P.4-5

2024年度事業報告Ⅰ

- ▶ 研修会・事例研究会



P.5

楽器紹介

- ▶ ツリーチャイム



P.6-7

2024年度事業報告Ⅱ

- ▶ 当会主催コンサート、依頼事業

P.8

音楽の豆知識

- ▶ 世界一長いピアノ曲…



理事長就任一年目を終えて

日頃より兵庫県音楽療法士会の活動にお力添えをいただきありがとうございます。

今年度より理事長を務めさせていただき1年が過ぎようとしていますが、理事長といっても名ばかりで、理事を中心に会員の力があって進んでいることに感謝の日々です。コロナ禍以降まだまだ現場は厳しい状況ではありますが、会員が力を合わせた当会主催コンサートの開催、依頼事業では介護予防での音楽療法の活用のお機会もございました。そして、また今年も広報誌『音の輪・音の和』をお届けすることができました。

この広報誌は音楽療法の重要性や、会員の活動報

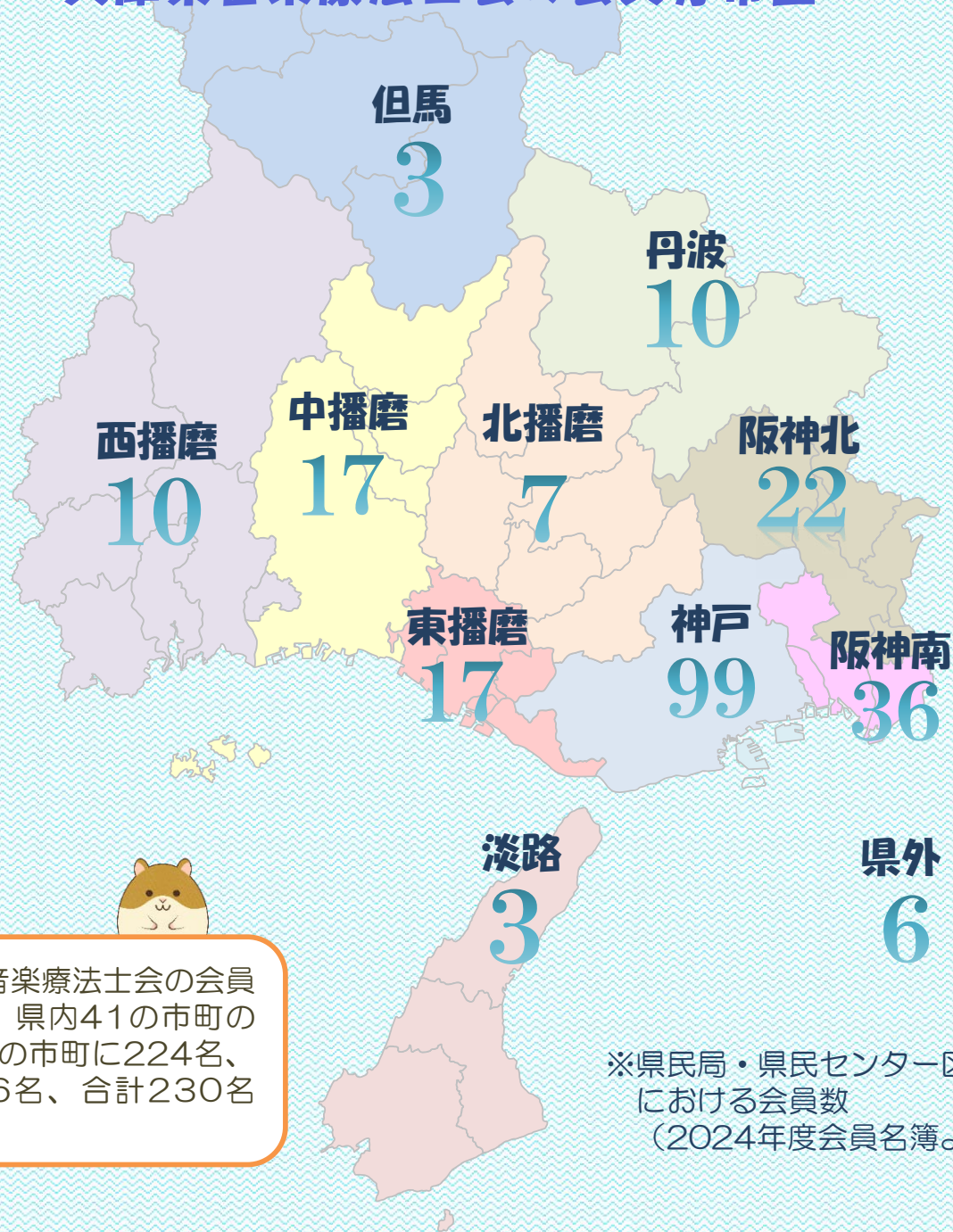
一般社団法人 兵庫県音楽療法士会 理事長 佃 誉子

告、そして音楽療法に関する様々な情報をお届けすることを目的としています。『音の輪・音の和』の“輪”はベクトルのように方向性のある関係ではなく、参加者皆さんの顔が見えるセッションをイメージし、“和”は和み（なごみ）、このような思いがこもっています。この広報誌を通じてさらなる会員同士の交流を深め、音楽療法の発展に寄与できることを心より願っています。



兵庫県音楽療法士ってどこにいるの？

兵庫県音楽療法士会の会員分布図



兵庫県音楽療法士会の会員は現在、県内41の市町のうち28の市町に224名、県外に6名、合計230名います。

※県民局・県民センター区分における会員数
(2024年度会員名簿より)

兵庫県音楽療法士が活動している施設等

* 令和6年度兵庫県音楽療法士活動状況調査（兵庫県保健医療部医務課）より

* 兵庫県音楽療法士会に所属していない方も含まれています。（令和5年度実績）

医療施設	高齢者施設	障害児・者施設	学校・保育所 幼稚園・児童館 開業療法室等	自主グループ	自宅	その他 (市町介護 予防等)	合計
31	302	269	12	13	31	56	714



あなたの町のセラピスト

●太田 雅己 会員（15期・神崎郡神河町在住）

兵庫県のほぼ中央に位置する人口1万人余りの自然豊かな町、神河町（旧神崎町・旧大河内町）。そこで生まれ育ち、地域密着型の活動をされている太田さん取材しました。

音楽との出会いは、ラジオから聞こえたフォークソング。地元ではギターを習うのも楽譜を買うのも大変です。その経験から、平成4年から町役場職員となった太田さんは「中高生のたまり場がコンビニではなく、音楽の広場であれば…」とサークルを立ち上げ、バンドを組み、音楽愛好者の和を広げました。「おもしろそう!」と子どもたちが遊びに来るようになり、その中にドラマ『あまちゃん』で知られるのん（能年玲奈）さんがいたのも驚きです。「楽しんだらええな」と音楽活動をするうち、兵庫県音楽療法士養成講座を知り「これだ!」と思ったとのこと。早期退職して資格を取得され、増々活動範囲が広がったそうです。

町には健康福祉課が主催する様々な介護予防の教室があり、その内のひとつの「ほがらか教室」で太田さんは音楽療法を担当。「いっぱい歌うと元気になる」と吟味された童謡・唱歌・昭和歌謡は、1回

90分のセッションでなんと20曲!次々と歌ううちに大きくなる歌声。皆さん、軽い運動を終えたかのような顔で満足そうでした。馴染みの方々は、通っているうちに80代、90代を迎えられたそうです。

子どもから高齢者まで関わる太田さんは、太鼓やギョを自分で作ります。音楽療法の場で高齢者が民族楽器を使用しているのを見て「おもしろい音が出るなあ」と。外には材料となる竹などがいっぱい。参加者が興味をもつように、工夫しながら作るそうです。

「団塊・フォーク世代の音楽的な企てや仕掛け人になれたら～」と熱く語る太田さん。新たな挑戦はまだ続きます!



◆高谷 寛 会員（19期・加古川市在住）



高谷さんは、加西市の特別養護老人ホームに現在事務主任（令和6年12月現在）として勤務されています。10年前、配属されたデイサービスで、初めて音楽療法に出会ったそうです。外部講師の兵庫県音楽療法士によるセッションに施設職員として関わり、音楽療法を体験していく中で、脳梗塞の後遺症で発語が困難な方が声を出されたり、重度認知症の方が歌を聴いて涙を流しながら手を叩いたりされる場面に遭遇、「これって何だろう」と不思議に思い、音楽療法に興味を持たれたそうです。そして生活相談員の仕事をしながら5年かけて兵庫県音楽療法士の資格を取得されました。

その後すぐ、新型コロナの流行により外部講師の音楽療法は中止となりましたが、利用されている

方々から「音楽をしてほしい」との要望が多く、高谷さんは厳重に感染対策を行いながら音楽療法を再開しました。感染対策による弊害もありましたが、再開後のセッションでも、発語のない重度認知症の方が、昔好きだった歌を聴いた途端に目を輝かせて歌い出されたり、普段は機能訓練にも参加されない方が、音楽療法の後には機能訓練に参加されたり、ほとんどデイサービスでも寝て過ごされる方が、音楽療法の時間には起きてきて活動される等、音楽による変化が見られたそうです。これらの体験等から、音楽療法をケアの一環として通所介護計画に位置付け、音楽療法で意欲の向上を図り、多職種連携でより良いケアに繋げていけるよう心掛けていたそうです。

今後は、「今年から始まった特養での音楽療法の進展や、新型コロナで中止になっている音楽を通じて福祉施設と地域との繋がりを作る活動を、感染対策をした形に変えながらも、段階的に再開していければ」と明るく話されていました。



後列左から山口 直子氏(向陽病院常務理事)
 佃 誉子氏(当会理事長)
 前列左から山口 紅子氏(向陽病院名誉会長)
 鞘本 尚子氏(当会会員)
 阿部 恩 氏(頌栄短期大学名誉教授)
 2024年11月16日兵庫県福祉センターにて

山口陽雄記念賞：兵庫県での音楽療法の発展と当会発足にご尽力下さった故山口陽雄先生(元向陽病院理事長)が、生前「音楽療法のさらなる普及発展と、音楽療法士の士気向上を図る」という目的で設立された賞です。ご逝去後も山口先生のご遺族が引き継いで下さり、毎年度会員1名に授与されます。

鞘本 尚子会員 (2期)

音大卒(クラリネット専攻)。2003年、兵庫県音楽療法士、日本音楽療法士学会認定音楽療法士両資格取得。高齢者、成人、終末期医療領域にて音楽療法を実施。2006年より5年間、音楽療法導入促進事業初代コーディネーターを務める。2011年より5年間、兵庫県こころのケアセンター音楽療法アドバイザーを務める。2018年より4年間、当会理事長、その後2022年より2年間、当会理事を務める。現在、セッションを通じて後輩の育成に携わる。以上の功績により、2024年度第12回山口陽雄記念賞を授与される。

第12回山口陽雄記念賞授賞式

今年度受賞された鞘本尚子会員にお聞きしました。

●受賞されて

これまで授賞式を支える立場でしたが、今回は自分自身が受賞し、大変感慨深く、嬉しく思います。

●これまでの実践現場について

高齢者と成人領域での実践、これが私の原点です。主にデイサービスで音楽療法を実施しました。施設からは「楽しい時間を」という要望が多かったため、楽しさの提供を工夫していました。そうするうちに「あの人にこんなことを」という具体的な依頼を頂くようになりました。その後、終末期医療を行う病院でのリコーダー演奏を始めました。緩和ケア病棟では、演奏を聴いて患者さんが病室から出て来られたり、病室に入り、患者さんのそばで吹かせていただいたりしたこともありました。様々な曲を通して、心の交流を感じていました。

●実践現場で大切にしていること

「自分自身への気づき」です。現在、複数の経験の浅い後輩音楽療法士に、コ・セラピストとしての参加をお願いしています。対象者だけでなく、主セラピストの私の動きも観察し、自分の動きを記録し振り返る事が課題です。コ・セラピストである自分の動きにどんな意図があったのか、適切だったか、を考察してもらっています。

●後輩育成への思い

若い期の音楽療法士(資格取得後年数が浅い期)に育ってほしいと願っています。兵庫県音楽療法士という全国的にも珍しい行政の認める資格を活かし、実践できる時間を大切にしてほしいです。

2024年度 事業報告 I 研修会・事例研究会事業

4月・研修会

山田 由紀子先生 音楽療法グループ アン・ディ・ムジーク代表、西宮音楽療法研究会理事
 「音楽療法士としての成長～対象者との関係を見つめるための記録～」

5月・研修会

一ノ瀬 智子先生 武庫川女子大学音楽学部教授
 「音楽療法のプロセスについて～アセスメントと目標設定を中心に～」

6月・事例研究会

岩井澤 奈巳先生 日本音楽療法学会認定音楽療法士、精神保健福祉士
 事例研究と講義「社交不安障害について学ぶ
 ～疾病障害に支配されず人生への影響を小さくする援助が行えるように～」

7月・公開研修会

横田 友子先生 一般社団法人VMCグローバルジャパン代表理事、日本代表VMC認定トレーナー
 「人間の可能性を引き出すリズムケアギバー
 ～ドラムサークル・ファシリテーターの在り方～」

8月・公開研修会

後藤 浩子先生 相愛大学非常勤講師
 「音楽療法を理解していただくために何をいかにお伝えするか？」
 「音楽療法士として倫理について考えましょう」

9月・公開研修会

猪野 純先生 ミュージックラボFUN主宰、日本音楽療法学会認定音楽療法士
 「響き合うココロとカラダのための伴奏法」 ⇒台風接近のため中止



★ツリーチャイムってどんな楽器？

みなさんは「ツリーチャイム」をご存知でしょうか。長さの違う細長い金属の棒（バー）が糸で吊り下げられている楽器で、長い棒から順に、短くなるにつれて音が高くなっていきます。その形状や音の鳴る仕組みなどから「バーチャイム」あるいは「ウィンドチャイム」とも呼ばれています。この楽器の音は、輝く星を思わせるような音で、オーケストラや吹奏楽といった様々な楽器演奏や、ドラマやCM等の劇中効果音にもよく使われています。

★どうやって演奏するの？

吊り下げられたバーに、手やピーター（金属のバチ）で触れると、バー同士が揺れてぶつかり、きらびやかな音が鳴ります。また、鳴らす速度や触れる範囲の違いで表現を変えることもできます。



これがダンパーです

ツリーチャイムの音の余韻は長く続くので、フェルトのついたダンパーにより音を静止できるものもあります。

★ツリーチャイムの小さな仲間？

サイズや形、名称を変えたものが様々あります。卓上型、棒がカラフルなおもちゃ型、棒が横並びではなく輪になったものなど。玄



関などに吊り下げられるものは、「ウィンドチャイム」と呼ばれています。



左記QRコードからツリーチャイムの音を聴けます。

★ツリーチャイムと音楽療法

ツリーチャイムは、ゆったりとした曲との相性がよく、音楽療法の現場では、星をイメージする曲などで効果的に使用されます。きらめくような音は、まるで宇宙を旅するようなワクワクとした気持ちを引き起こし、長く続く音の余韻は、自然と穏やかな気持ちに導いてくれます。終わりを意識してもらうため、プログラム終盤に使われることも多いです。現場での使用例を一部ご紹介します。

♪ 子どもの現場では…



ツリーチャイムは多くの子どもたちに人気があります。幼児から高校生まで、みんなが我先にと鳴らしたがる様子も見られます。音色だけではなく、見た目にもキラキラしていて、興味を持ちやすいのかもしれませんが。年齢や発達の度合いに関わらず、誰でも触れるだけで簡単に音を鳴らすことができる楽器のため、鳴らし方に個性が表れます。指で一音ずつ順に鳴らす子もいれば、両手でバーを握ったり離したりを繰り返す子もいます。

♪ 高齢者の現場では…



ツリーチャイムをスタンドから外して参加者の目の前まで持っていき、鳴らしてもらうこともあります。手が思うように動かせない方や、握る力が弱くて他の楽器が持てない方でも、バーにほんの少し触れるだけで音が鳴らせます。あまり馴染みのない楽器を集団の中で一人ずつ鳴らすという状況から、初めは少しドキドキされる方もいますが、音が鳴ると自然と笑顔になることが多く、「きれいな音ね」や「癒された」という感想も聞かれます。

10月・公開研修会

松崎 敦子先生 三育学院大学看護学部特任准教授
「応用行動分析学の基礎と音楽療法での応用」

11月・公開研修会

小塩 真司先生 早稲田大学文学学術院教授
「ポジティブなパーソナリティについて理解する」

12月・公開研修会

今井 絵美子先生 医療法人社団慈恵会神戸総合医療専門学校教育主幹 言語聴覚士科 副学科長
「失語症を理解する～伝わる喜びの体験～」

1月・公開研修会

宮坂 淳介先生 京都大学医学部附属病院リハビリテーション部 理学療法士
「リハビリテーションの概要－身体の構造・仕組みから
リハビリテーションの実際まで－」

2月・公開研修会

加戸 敬子先生 大阪成蹊大学教育学部教授、国立病院機構大阪刀根山医療センター
「神経難病患者への心理ケアとしての音楽療法」 脳神経内科音楽療法士

公開研修会は日本音楽療法学会の認定番号を取得しています。開催の告知は当会HPでご案内しております。



当会主催コンサート

『どこでもドアを使って音楽の旅にでかけましょう』というテーマで、11月30日神戸市立北神区文化センターにおいて、当会主催のコンサートを行いました（132名参加）。幅広い年代、障がいの有無に関わらず皆さんに楽しんでいただけるよう曲や楽器を選び、また目にも耳にも身体全体で音楽を楽しめるプログラムを考えました。

子どもたちに人気の『夢をかなえてドラえもん』で始まり、大きなスクリーンに映し出された「どこでもドア」を開いて音楽の旅へ誘います。まず初めはタンゴの世界。思わず体を動かしたくなる『ラ・クンパルシータ』のリズムに手拍子足拍子の音が響きます。大人にはお馴染みの『グリコ』の決めポーズで締めくくると、子どもも大人も大笑い。会場は活気に溢れました。再び「どこでもドア」を開くと、日本の秋。『里の秋』『野菊』など秋の曲のメドレー



が始まると、会場のあちこちから大人の方の歌声が聞こえてきました。

場面は変わって「宇宙の旅」。ここでは音楽療法士が舞台から降りて会場の皆さんの近くへ。握りやすいエッグマラカスや、柔らかい音色のトーンチャイム等の楽器を参加者全員に配りました。スクリーンには宇宙の画像が映し出され、音楽療法士のピアノの即興演奏と参加者の皆さんが感じたままに自由に鳴らす楽器の音が溶け合い、会場全体が宇宙空間のように感じられました。最後は鈴の音とともにクリスマスのムードで一杯に。参加された方々が、「楽しかったね」と、笑顔で会場から出てこられたのが印象的でした。



依頼事業

ひょうご県友会様からのご依頼～「音楽で ころろ豊かに」

ひょうご県友会様は兵庫県職員退職者の会で、会員の健康相談や地域住民への健康サポート等、社会貢献事業も行っておられます。昨年度、同会より「歌うことが健康に繋がる、と聞いている。シニアはつらつ応援事業において、音楽療法について学びたい」と講演の依頼をいただき、令和6年3月8日、兵庫県職員会館にて音楽療法についての講義と体験型ワークショップを行いました。

事前の打ち合わせで、参加者は地域住民の方を含むお元気な高齢者であること等を伺いました。そこで、音楽療法の講義だけではなく、音楽療法がフレイル（加齢による衰え）予防につながることをみなさんに実感していただけるような、体験型のプログラム構成にしました。

当日は、会員22名、一般の方25名が参加され、音楽療法の解説に熱心に耳を傾けられました。その後『東京ブギウギ』を一緒に歌うと「このドラマを観ているよ」「私も！」「懐かしいね」と参加者の方々



にたくさんの会話が生まれ、会場の雰囲気は一気に和やかに。小物楽器を選んでいただき、合奏でも大いに盛り上がりました。『春がきた』の歌唱では、会場のあちこちでバードコールの音が響き、会場全体に春が訪れたようでした。参加者の方々から「心躍る体験だった」等の感想をいただきました。この一回でも、心身に刺激が与えられ、それぞれが持ち帰って音楽とともに楽しく健康に過ごしていただける日常に繋がれば、と思いました。

加西市シニアカレッジ「北部かしの木学園」様からのご依頼 ～ 「音楽でリフレッシュ！」

6月14日、加西市北部公民館にて加西市シニアカレッジ「北部かしの木学園」の第2回講座「音楽でリフレッシュ！」を担当し、音楽療法を体験していただきました。「かしの木学園」では、地域にお住まいの60歳以上の方を対象に、市内4か所の公民館において、それぞれ年間10回の様々な講座が開催されています。

ご依頼時に職員の方から「音楽を使って楽しい時間を過ごしたい、その上で音楽療法の説明があれば嬉しい」とのご希望を伺いました。また同時に、地域の方々の仲間づくりに役立てたいという熱い思いも伝わってきました。

歌唱曲は相談の上、参加者の年代に合わせて『白いブランコ』や『また逢う日まで』等を選曲。当日のプログラムは、音楽に合わせたリンパ・マッサージや楽器活動の合間に音楽に関する話を入れる形で進めました。締めくくりは『世界の国からこんにちは』のミュージックベルの三和音奏。みなさんと一体感を持てた貴重な時間でした。

初めは固かった会場の雰囲気徐徐に和んできた



ことを肌で感じ、音楽の持つ力を再確認しました。終了後のアンケートでは「また参加したい」との声を多数いただき、「音楽が情動に直接作用する」という話から「私にも大事な曲があることを思い出しました」と書いてくださった方もいらっしゃいます。皆さんがリラックスしながらも真剣に講座に参加してくださった様子が伝わってきました。

三木市健康福祉部介護保険課様からのご依頼

三木市は、高齢者が自分らしく生きがいを持って住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう「みんなで支え合うまち」を目指しています。そのような中、市は介護予防体操「みっきい☆いきいき体操」を考案し、市内126か所で開かれている住民主体の自主教室を支援しています。更に、フレイルの3本柱「運動」「口腔・栄養」「社会参加」を中心とした介護予防講座を年に数回開催しています。今回「音楽療法を通して、その人が本来持っている力を引き出すことができ、健康づくりに繋がること」を期待されて、介護予防講座の一環として当会へ音楽療法のご依頼をいただきました。

ご希望のあった10か所の自主教室で、複数の音楽療法士が音楽療法を実施しました。その中の一教室では、ご近所に住む70代から90代の10名が参加。元気におそろいのTシャツで来館され、普段からともに楽しく活動し、声を掛け合って過ごされていることがすぐに感じられました。プログラムは、事前のアンケートから選曲し、歌唱・身体・楽器の



各活動がフレイルの3本柱と結びつくような内容にしました。参加者の皆様は、それぞれの活動に積極的に関わり、新たな話題も生まれ、楽しく参加してくださいました。「こんな楽器（ベル）を持つのは初めて！持って帰りたいわあ」と笑顔で言われる方や、興味を持って自ら楽器を変える方もおられました。ひとときの音楽療法が、介護予防に少しでもお役に立てれば、と思いました。

音楽の豆知識



●エリック・サティの世界一長いピアノ曲

20世紀のフランスの作曲家、エリック・サティの有名な曲といえば、『ジムノペディ』や『ジュー・トゥ・ヴー』など。曲名は知らなくても、テレビのコマーシャルやドラマなどで一度は耳にしたことがある方は多いのではないのでしょうか。

一方、耳にすることがあまりない曲として、ピアノ曲『ヴェクサシオン』があります。ギネス世界記録に認定された世界一長いピアノ曲で、演奏時間は演奏者にもよりますが、18時間とも、それ以上とも言われています。

実はこの曲、拍子も小節もなく、また調号（#b）もなく無調で構成されており、なんと楽譜はたったの1ページ、音符をそのままひととおり弾くと約1分。しかし「非常にゆっくりと」「840回繰り返し」という指示がついているため、演奏には長時間を要します。楽曲名の『ヴェクサシオン』は“嫌がらせ”

や“癪（しゃく）の種”という意味だそうで、曲のイメージは暗く、重く、まさに嫌がらせのよう。聴く人によっては何か怖いイメージを持たれるかもしれませんね。演奏するのも大変ですが、聴いている人も疲れて眠ってしまいそう…。

最後まで演奏するのには相当な根気がいると思いますが、世界各地で演奏にチャレンジした演奏家たちがいます。世界初演は1963年にニューヨーク・ポケット・シアターにて、10人のピアニストと2人の助っ人で演奏されました。日本初演は1967年12月31日に東京・アメリカ文化センターで始められ、年越しをして1968年1月1日の朝に終了したそうです。

「音楽界の異端児」との異名を持つエリック・サティは、この他にも奇妙な楽曲を数多く残しています。ご興味のある方は、ぜひ一度聴いてみてください。

参考文献 ●フリー百科事典 Wikipedia ●「同じ旋律を840回?! サティ ヴェクサシオン」(<https://note.com>) より

information

♪ 音楽療法の実施や講演依頼等 … 事務局へお問い合わせください。

●お問い合わせ先 E-mail: jimukyoku@hmta.jp Fax: 078-261-9602

♪ ホームページでは、音楽療法に関すること、会の活動や公開研修会の案内などをご覧いただけます。 <https://hmta.jp>

【ホームページ】



2024年度 理事

後列左から 広報部長: 宇野 京 倫理部長: 上野 奈央
財政部長: 久保田 由賀里 企画部長: 岸田 由起
前列左から 事務局長: 増井 まり子 理事長: 佃 誉子
副理事長: 井上 恭子



兵庫県音楽療法士会の会員も230名となりました。それぞれが、県下で実践活動を行い、また普及に努めています。「音楽療法をもっと身近に感じていただきたい」との思いから、今号では会員の分布と活動施設等を図表で示しました。皆さまのお近くにも、音楽療法士がいるのでしょうか。また、近年、「介護予防」のために音楽療法に関心を持ってくださっている自治体のお話も聞きます。皆さまの様々なニーズにお応えできるように、私たちは取り組んでまいります。ご関心をお持ちの方はどうぞ事務局までご一報ください。今号発行にあたり、ご協力いただきましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

(広報部 宇野)



一般社団法人

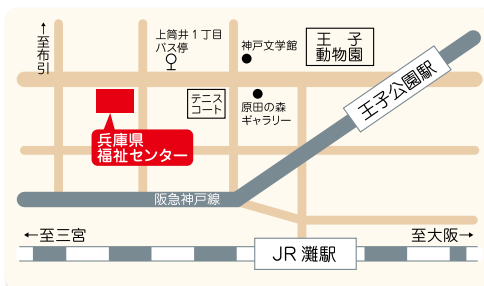
兵庫県音楽療法士会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター 6F

TEL (078)261-9601 FAX (078)261-9602

E-mail: jimukyoku@hmta.jp



【アクセス】

JR灘駅・阪急王子公園駅
下車徒歩約10分

神戸市バス(90・92系統)

上筒井1丁目

バス停下車すぐ